

2026年3月期第1四半期 決算説明資料

2025年8月7日

1Q実績サマリー

- ◆ 売上高は、戦略事業(精密ばね事業・海外鋼材事業)が伸長したものの、国内鋼材事業における受託(*)数量減や原材料価格下落に連動した売価の低下等により、減収。
- ◆ 営業利益は、戦略事業の収益貢献があったものの、受託数量減に伴う生産コスト増等により、減益。
- ◆ 経常利益は、営業減益に加え、1Qにおける為替変動に伴う海外子会社の為替評価損等を計上したことにより、大幅減益。
- ◆ 四半期純利益は前期計上した特別損失は解消するも、経常減益及び税効果会計の影響等により損失を計上。

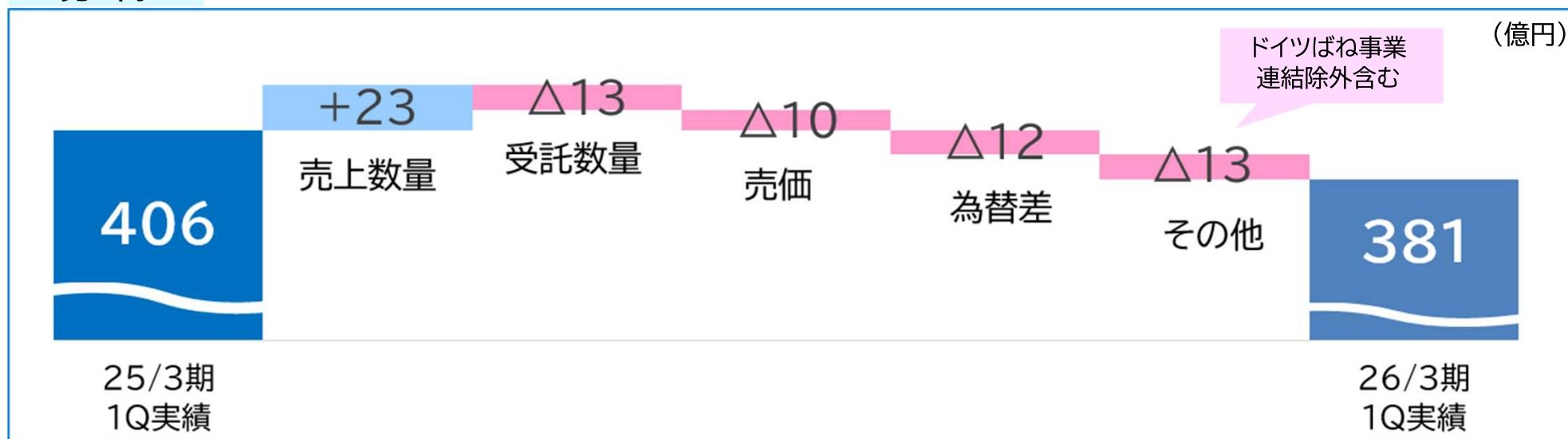
※：日本製鉄株式会社殿から生産を委託されている売上
(億円)

為替レート		
25/3期1Q末	25/3期末レート	26/3期1Q末
161円	150円	145円

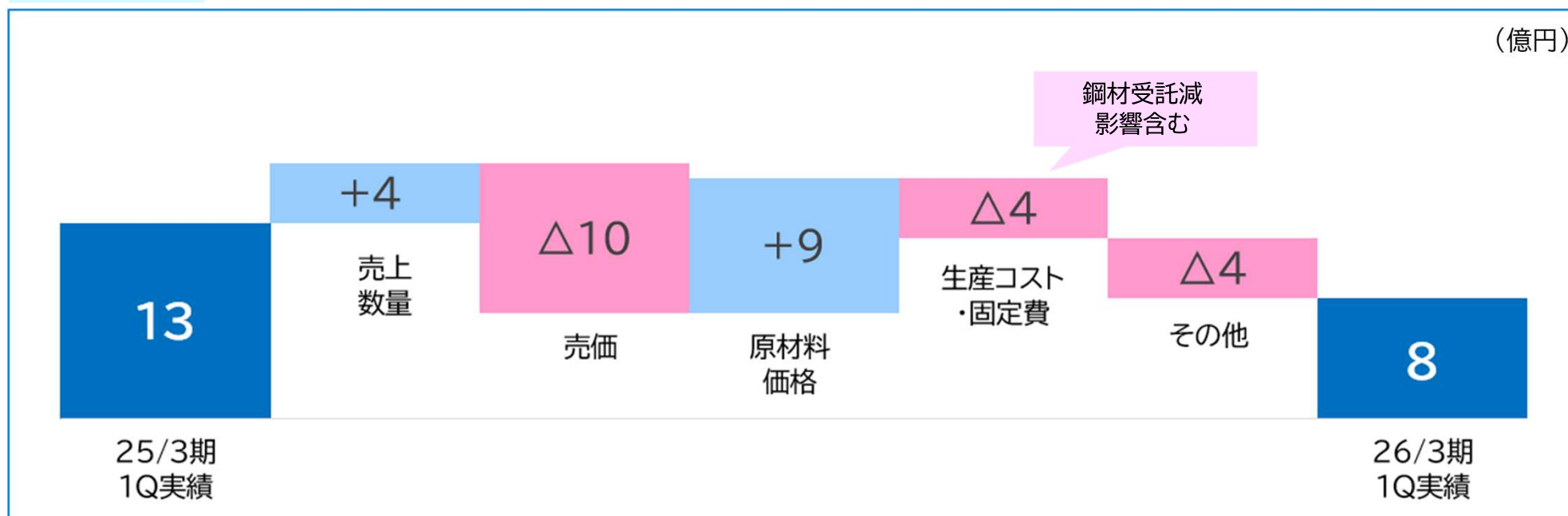
	25/3期1Q 実績	26/3期1Q 実績	前年同期比
売上高	406	381	△25
営業利益	13	8	△5
経常利益	12	2	△10
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1	△1	△2

売上高・営業利益の変化要因

売上高



営業利益



セグメント別実績一覧

(億円)

			25/3期1Q実績	26/3期1Q実績	前年同期比
特 殊 鋼	鋼 材	売 上 高	205	187	△18
		営 業 利 益	6	0	△6
ば	ね	売 上 高	181	177	△4
		営 業 利 益	6	8	2
素 形 材		売 上 高	24	20	△4
		営 業 利 益	2	1	△1
機 装	器 置	売 上 高	16	18	2
		営 業 利 益	0	△1	△1
そ の 他		売 上 高	10	10	0
		営 業 利 益	1	1	0
連 結 調 整		売 上 高	△30	△30	0
		営 業 利 益	0	0	0
合 計		売 上 高	406	381	△25
		営 業 利 益	13	8	△5

セグメント別業績実績(特殊鋼鋼材・ばね)

特殊鋼鋼材事業

(億円)

	25/3期 1Q	26/3期 1Q	前年 同期差
売上高	205	187	△18
営業利益	6	0	△6

国内鋼材販売量(累計)

25/3期1Q	26/3期1Q
84千t	84千t

※:受託分除く

◆ 売上高(減収)

- ・国内：受託数量減や原材料価格下落に連動した売価の低下
- ・海外(インドネシア)：商用車向けの売上数量増

◆ 営業利益(減益)

- ・国内受託数量減に伴う生産コストの上昇

ばね事業

(億円)

	25/3期 1Q	26/3期 1Q	前年 同期差
売上高	181	177	△4
営業利益	6	8	2

◆ 売上高(前期並み)

- ・精密ばね事業及び国内ばね事業は売上数量増
- ・一方で、北米子会社は関税影響等により売上数量減
- ・欧州ばね事業撤退による売上減少
- ・円高進行による円換算額減

◆ 営業利益(増益)

- ・精密ばね事業をはじめとする売上数量増

セグメント別業績実績(素形材・機器装置)

素形材事業

(億円)

	25/3期 1Q	26/3期 1Q	前年 同期差
売上高	24	20	△4
営業利益	2	1	△1

◆ 売上高(減収)

- ・特殊合金粉末は新規取引を含む売上数量増
- ・一方で、精密鑄造品をはじめとする他製品が売上数量減

◆ 営業利益(減益)

- ・売上数量減
- ・特殊合金粉末における合金原材料価格上昇分について、売価転嫁までのタイムラグ発生

- ✓ 前期より課題となっていた、精密鑄造品の製造コスト上昇分に対する売価転嫁は、交渉決着により、1Q分含め2Q以降に順次回収予定。
- ✓ 特殊合金粉末の売価転嫁タイムラグも解消し、2Q損益は改善見込み。

機器装置事業

(億円)

	25/3期 1Q	26/3期 1Q	前年 同期差
売上高	16	18	2
営業利益	0	△1	△1

◆ 売上高(増収)

- ・防護装備品及び鍛圧機械等の売上増

◆ 営業利益(減益)

- ・鉄構品製造過程における一時的な生産性低下

- ✓ 1Qは損失計上となったが、同事業は従来より、大型受注案件を工事進捗で売上計上するケースが多く、半期末に収益が偏る傾向にある。
- ✓ 生産性は足元では前年同期並みまで回復しており、2Q損益は改善見込み。

営業外損益・特別損益影響

- ◆ 営業外費用は、1Qにおける為替変動による海外子会社の為替評価損等により増加。
- ◆ 四半期純利益は、ドイツばね事業撤退に関する特別損失が解消も、経常減益及び税効果会計の影響等により、損失を計上。

(億円)

		25/3期 1Q実績	26/3期 1Q実績	前年同期比
営業利益		13	8	△5
	営業外損益	△1	△6	△5
	為替差損益	2	△4	△6
	支払利息	△4	△3	1
経常利益		12	2	△10
	特別損益	△8	1	9
	保険金収入	2	—	△2
	投資有価証券売却益	—	1	1
	事業整理損失(引当金繰入額含む)	△10	—	10
税金等調整前四半期純利益		5	3	△2
税金費用等		△3	△4	△1
非支配株主に帰属する四半期純利益		0	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益		1	△1	△2

2Q以降の利益見通しについて

- ◆ 営業利益は、1Qでは需要回復遅れ等により、特殊鋼鋼材事業が期初想定に対し下振れするも、2Q以降で改善を見込む。
- ◆ 特殊鋼鋼材事業の1Q下振れ分を好調なばね事業や素形材事業がカバーし、機器装置事業が想定並みとなることで、上期営業利益は期初予想並みを想定。
- ◆ 下期についても期初予想並みを想定し、通期業績予想は期初予想(5月14日公表)から修正なし。

	26/3上	26/3期 上期見通し		
	期初予想	1Q実績	2Q予想	上期見通し
営業利益	30	8	22	① 30
営業外費用	△8	② △6	△2	△8
経常利益	22	2	20	22
特別損益	0	1	0	1
税金費用等	△7	③ △4	△3	△7
非支配株主に帰属する当期純利益	△2	0	△1	△2
当期純利益	13	△1	14	13

① 営業利益は、以下要因により、特殊鋼鋼材事業で期初比下振れもばね・素形材事業がカバー

	期初予想	1Q実績	2Q予想	上期見通し	期初予想比	期初予想からの変化点
特殊鋼鋼材	12	0	5	5	△7	前4Qに悪化した国内鋼材需要が、1Qでは期初の想定ほど回復が進まず、数量低迷の影響で生産コストも悪化。一方で、2Q以降で徐々に回復が進むほか、海外鋼材事業は好調を維持することから、2Qでは期初予想並みの水準まで回復する見込み。
ばね	11	8	9	17	6	国内ばね事業が期初予想よりも上振れを見込む。また米国関税政策によるコストアップ影響も軽微に留まる。
素形材	2	1	2	3	1	精密鑄造品のコスト増に対する売価転嫁決着で期初予想比上振れを見込む。
機器装置	4	△1	5	4	0	1Qで損失計上も、事業の性質上、半期末に損益が偏る傾向にあり、期初予想並みを見込む。

- ② 為替変動により、1Qで為替差損計上も、2Qでは縮小を見込む。
- ③ 1Qでは税効果の影響により実効税率悪化も、2Qではその影響は解消する見込み。

【トピックス】インド持分法適用会社 スタビライザ製造ライン増設

- ◆ 持分法適用会社であるStumpp Schuele & Somappa Auto Suspension Systems Pvt.Ltd. (以下5S社)チェンナイ工場に、乗用車用スタビライザの新製造ラインの増設を決定。

5S社製造ライン増設の背景

- ◆ インドの自動車市場は人口増や所得向上を背景に需要増となり、5S社も本年1月に巻ばね製造ラインの新工場を増設
- ◆ 足元ではスタビライザの受注も増加しており、チェンナイ工場及びソナ工場のスタビライザラインがフルキャパシティーに近い操業となる

スタビライザ製造ラインの増設を決定

【設備投資の概要】

- ◆ 総投資額 : 約6.5億円
- ◆ 完成時期 : 2026年度(予定)
- ◆ 生産能力 : 現行の約2倍を計画





＜将来見通しに関する注意事項＞

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。